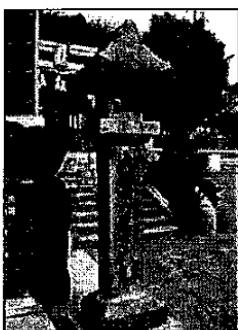
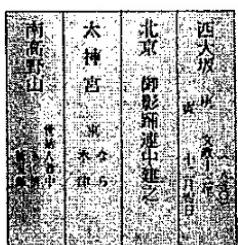


須波麻神社のおかげ燈籠



須波麻神社のおかげ燈籠

おかげ燈籠に刻まれた文字
(大東市文化財ガイドブックI
『石の文化財』より)

須波麻神社の境内に上がる階段の手前に、1基の石燈籠があります。この燈籠は、江戸時代後期の文政13年(1830)に伊勢神宮への集団参詣「おかげ参り」を記念して建てられた「おかげ燈籠」で、当初は須波麻神社から50メートルほど西の東高野街道沿いに立っていたそうです。燈籠の竿(柱)の各方面には、大坂・京・太神宮(伊勢神宮)・高野山などの行き先と方角が刻まれていることから、街道を往来する旅人のための道標として利用されていました。

江戸時代、庶民の間では、「おかげ年」(式年遷宮の翌年)に伊勢神宮に参ると特別な「おかげ」(恩恵)が得られると言われ、多くの人がおかげ参りに旅立ちました。おかげ参りの大流行は、およそ60年の周期で発生しており、文政13年には40万人以上の人人が伊勢神宮に参詣したと言われています。当時は、雇工や親の許可を得ず無断で「抜け

参り」を行う人も多く、彼らは道中で食料や金品の施しを受けながら、伊勢をめざしました。また同じ年には、河内地方を中心に、人々が派手な衣装を身に着けたり、仮装をしたりしながら乱舞する「おかげ踊り」も流行りました。須波麻神社のおかげ燈籠には、「御影踊連中」の文字が刻まれており、当地でもおかげ踊りが盛んであったことがうかがえます。中垣内村では、これより少し時代は下りますが、幕末の慶応3年(1867)にも伊勢神宮のお札が天から降ってきました。これを祝う「ええじゃないか」の踊りが大和国(奈良県)から伝播し、再び熱狂の渦に包まれました。

現在市内には、江戸時代後期に建立されたおかげ燈籠が、須波麻神社の他に、寺川・三住町・栄和町・御領・灰塚・外にも龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらに10メートルほど行くと、左手に如意輪觀音を本尊とする曹洞宗永平寺派の寺院・白雲山鳳字寺があります。鳳字寺は、江戸時代中期の享保5年(1720)、円隨丈心という僧が開創したと言われており、昭和17年(1942)に正式な寺院となるまでは「鳳字庵」という名称

でした。かつては、現役を退いた老僧が住む庵(隠居所)として用いらるが、須波麻神社の宮司を兼ねていた江戸時代後期の文政3年から50メートルほど北へ行くと、右手上に役行者の石像が見えます。役行者は、奈良時代に修驗道という山岳信仰を創始し、神秘的な靈力によつて多くの人を救済したとされる伝説上の人物で、古くから庶民の信仰の対象となりました。市内には、当地以外にも龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらには龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらに10メートルほど行くと、左手に如意輪觀音を本尊とする曹洞宗永平寺派の寺院・白雲山鳳字寺があります。鳳字寺は、江戸時代中期の享保5年(1720)、円隨丈心という僧が開創したと言われており、昭和17年(1942)に正式な寺院となるまでは「鳳字庵」という名称

鳳字寺―文化人が集うかつての尼寺



役行者像



如意輪觀音像



前回紹介したおかげ燈籠の左手には、北側の古堤街道へ抜けていく細い坂道があります。道の東側は崖地となつており、その上には阪奈道路上り線が通っています。おかげ燈籠から50メートルほど北へ行くと、右手上に役行者の石像が見えます。役行者は、奈良時代に修驗道という山岳信仰を創始し、神秘的な靈力によつて多くの人を救済したとされる伝説上の人物で、古くから庶民の信仰の対象となりました。市内には、当地以外にも龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらには龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらに10メートルほど行くと、左手に如意輪觀音を本尊とする曹洞宗永平寺派の寺院・白雲山鳳字寺があります。鳳字寺は、江戸時代中期の享保5年(1720)、円隨丈心という僧が開創したと言われており、昭和17年(1942)に正式な寺院となるまでは「鳳字庵」という名称

でした。かつては、現役を退いた老僧が住む庵(隠居所)として用いらるが、明治初期の神仏分離以前は、老僧が須波麻神社の宮司を兼ねていた江戸時代後期の文政3年から50メートルほど北へ行くと、右手上に役行者の石像が見えます。役行者は、奈良時代に修驗道という山岳信仰を創始し、神秘的な靈力によつて多くの人を救済したとされる伝説上の人物で、古くから庶民の信仰の対象となりました。市内には、当地以外にも龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらには龍間・北条・赤井・灰塚・新田に、役行者の像がまつられています。さらに10メートルほど行くと、左手に如意輪觀音を本尊とする曹洞宗永平寺派の寺院・白雲山鳳字寺があります。鳳字寺は、江戸時代中期の享保5年(1720)、円隨丈心という僧が開創したと言われており、昭和17年(1942)に正式な寺院となるまでは「鳳字庵」という名称